No.15
2001年4月1日

いい旅いい仲間

Peace Green Humanity

発行所：（株）富士国際旅行社
編集者：「いい旅いい仲間」編集委員会
〒160-0022　東京都新宿区
新宿2丁目11―7　第33宮庭ビル4階
℡ 03-3357-3377　FAX 03-3357-3317
E-mail：gm@fits-tyo.co.jp
URL：www.fits-tyo.co.jp
印刷所・光陽印刷 ＠ 発行部数/25,000部

高齢者が楽しみながら生きがいのもてるデイサービスハウス

大阪市西淀川区、兵庫県に最も近い佃（つくだ）一丁目（人口約三七〇〇人）にあるミニデイサービスハウス「ひまわりの家」を訪ね、代表世話人の遠地昭典（えんちあきふみ）さんにインタビューしました。

山口　このミニデイサービスハウスができたきっかけをお伺いしたいのですが。

遠地　直接のきっかけは、女房の母親が阪神大震災の一年前に（もう六年前かな）、痴呆症になりました。去年あたりからいろいろ問題が起きてきて、もう一人でおいておくことができなくなりました。

　駅の近くにある老人センターのデイサービスを週に一～二回利用していたんですが、去年の介護保険ができてから、他の支援事業所に行かなければならなくなったんですよ。

介護保険の審査は？

山口　介護度は、どのくらいですか。

遠地　介護度一でしたね。コンピューターの第一次審査では、要支援になりましたが、医者の意見書で介護度二になったんです。二回目（昨年十月）を受ける時には、一回目の調査と中身がくい違うという事で、介護度一に下げられたんです。実際には痴呆が進んでいるはずやのに、調査の中では、軽くなっているでしょう・・・・（笑い）。審査請求も含めて、今いろいろやっていますが…。

　痴呆症の場合は、個々人によって違っていますから。夜中に起きて食事をしたり、ほっておけば何回も食べるとか。むしろ、そういうことを調査項目に入れてほしいですね。

阪神大震災の中で

山口　阪神大震災の時は、ここはどのくらいの被害があったんですか。

遠地　「ひまわりの家」がある一丁目は、古い平屋の住宅が多く、一五〇～二〇〇戸が全半壊の被害を受けました。ガス管や水道管が破裂して、一週間くらい断水でしたね。もうこの辺の地盤は全部液状化。ひどい所は、畳の上まで泥がふきだしてきました。大阪では、ここが一番被害が大きかったようです。

山口　その中で「ひまわりの家」は、どういう経過でできたのですか。

グループホームのような施設を

遠地　スウェーデンにあるグループホームのような施設を作りたいということで、いろいろな学習会の中で、「高齢者の住まいづくりの会」を発足させたんです。昨年の四月に空家の交渉をはじめ、七月に開所にこぎ着けました。ここは昔の家で、六畳と四畳半の部屋をぶちぬいてひとつにしたんです。

　震災の時にだいぶ傾いて、上は水平やけど、下は傾いたままです。

山口　日常的には何をされているのですか。

遠地　週一回木曜日に、食事会を中心にやってます。今まで受けられたサービスが受けられなくなった人や、一人で暮らしている方を中心にして、半分ボランティアで来られている方を含めて二〇人ぐらいかな。

　午前中は体操をしたりしてます。佃一丁目は高齢化が進んでいるのですが、体が不自由で来られない人のために食事サービスもしています。自由にとにかく楽しんでもらう、憩いの場として考えています。

山口　ここの運営はどうなっていますか。

遠地　食事に関しては、実費をもらっています。家賃や光熱費などは賛助会（月会費一口千円）を集めています。

山口　会員は？

遠地　賛助会員が二〇名、カンパしてもらった人が五〇名。

積極的なプラス思考で

山口　昨年、北欧の高齢者福祉視察にご参加いただきましたが、印象は。

遠地　積極的なプラス思考、自分で楽しみながらやっていくことが重要ですね。使命感だけではなくて。頭で考えることと、北欧に行って体で感じることはやっぱり違いますね。

山口　ありがとうございました。

（左から）遠地さんと山口（編集委員）

福祉視察の旅

北欧（高齢者福祉）視察の旅

5月27日（日）～6月 3日（日）　8日間　350,000円
7月 1日（日）～7月 7日（日）　8日間　398,000円

★サービスハウス及びグループホーム見学
★年金者が中心で運営している福祉センターと高齢者の自立を促す高齢者専用集合住宅見学
★介助器具についてのレクチャー
★現地ヘルパーさんとの懇談・交流（オプション）

①成田発、ストックホルムへ＜ストックホルム3泊＞②午前：ストックホルム市内見学＝市庁舎、旧市街（ガムラスタン）など　午後：自由行動③終日：ストックホルム近郊自治体訪問（サービスハウス及びグループホーム見学）④午前：空路コペンハーゲンへ　午後：コペンハーゲン市内見学=人魚姫の像、レジスタンス博物館など＜コペンハーゲン3泊＞⑤⑥年金者活動センター（デイセンター・サークル室など）、高齢者専用集合住宅、介助器具センター　OP ＝社会福祉職員養成学校の先生、生徒との懇談⑦空路、帰国の途へ⑧午前：東京・成田着

北欧のトータルな福祉システムを見学

（子ども、障害者、高齢者、オンブズマン制度）

8月20日～28日　9日間　430,000円

★子どもと障害者の福祉システムを見学
★高齢者福祉の見学とオンブズマン制度について学びます。
★田園風景の続くスコーネ地方の古城を見学。

①成田発、コペンハーゲン経由でスウェーデン、ハルムスタッド市（人口85,000人）へ＜ハルムスタッド2泊＞②午前：スウェーデン社会福祉システム（レクチャー）　午後：サービスハウス見学③午前：ホームヘルプサービスセンター見学後、列車でスウェーデン第三の都市マルメへ＜マルメ4泊＞④⑤デンマーク福祉システム視察（保育園、学童保育、障害者福祉施設及び子どもの為の公園見学）⑥終日：「ニルスの不思議な旅」の舞台スコーネ地方の古城めぐり（トゥールプ城など）⑦終日：自由行動（添乗員がコペンハーゲンまでご案内）⑧空路、帰国の途へ⑨東京・成田着

豊かな自然から得る恩恵
礼文島の魅力

宮本誠一郎（自然写真家）

この島の魅力は何ですか？何があなたを魅了したのですか？　島に住んで十年目、何度となく受けた質問です。でも実際は「ただ何となく好きだ」と言うのが本音になります。花が好きで島に来たわけでもなく、魚釣りが好きで来たわけでもありません。でも住むことによって新たな魅力の発見につながったことは確かです。一日や二日の短い旅程では味わえない魅力がそこにありました。

季節ごとに花が違う、鳥が違う、魚が違い、景色が違います。すべてを味わうためには毎日いなくてはなりません。礼文島の自然には一生かかっても体験できない楽しみ方の組み合わせがあるのです。

レブンアツモリソウ

春の季節

春、四月久種湖の氷が溶けて湖面が開くと渡り鳥の群れがやってきます。沼にはアオサギやアマサギ、オシドリやキンクロハジロ、草原にはカワラヒワやアオジなどの群がやってきます。湿原にはミズバショウやザゼンソウの群落が広がり花の季節の始まりです。浜ではシラス漁がおこなわれ、ゆでたてのシラスが食卓に並びます。五月下旬、レブンコザクラやハクサンイチゲが百花繚乱の始まりを彩ります。早朝にヤリイカが届き朝食からイカ刺しです。六月スズランの甘い香り、ミヤマオダマキで紫になる岩肌、ヨツバシオガマが草原をピンクに染め、エゾカンゾウの黄色が青空に映える時期は世界一うまいウニを味わいます。

ミズバショウ

夏の季節

七月、レブンウスユキソウが白い星を草原に散らし、イブキトラノオが花穂を風に大きく揺らしピンク色のウェーブを作ります。私は眩しい日差しの中、早朝の新鮮な磯の香りをかぎながら、昆布干しの手伝いをします。晴れた青い海には利尻島の逆さ富士が写ります。

秋の季節

八月、ツリガネニンジンの紫の鐘とトウゲブキの黄色いバチが秋の訪れを奏でる頃、夜の海にいくつも漁り火が浮かびます。

冬の季節

秋にはキノコ刈り、冬には雪遊びなど。ここにあげたものは私の日常生活で味わえるほんの一例のことです。

離島に住むことはたいへんな面もありますが、豊かな自然から得られる恩恵は他に比類無き魅力です。

まだ一度も礼文島を訪れたことがない方は試しに桃岩歩道の原生花園を歩き、最高のウニを食べてみて下さい。きっとこの島に魅了され、礼文島に住んでみたくなることでしょう。

「礼文　花の島　花の道」
定価（本体1,068+税）
発行所：北海道新聞社

宮本誠一郎　自然写真家

1960年千葉県柏市生。千葉県立我孫子高等学校卒。92年より礼文島在住。レブンクル写真事務所主宰。95年よりレブンクル自然館代表。自然情報誌の発行開始。
＜著書＞　95年「礼文・花の島花の道」（共著）北海道新聞社／95年「ＲＥＢＵＮ」（写真集・共著）青菁社／97年「利尻・山の道花の道」（共著）北海道新聞社／96年「葉書作品集　利尻の見える風景」／98年「Ｒｅｂｕｎ・風の島5」／99年「サロベツの風」／2000年「Ｒｅｂｕｎ・風の島6」「サロベツ花原野花の道」など

※上記書籍購入ご希望の方は、国内担当：太田まで

当社推薦の宿 No.7

「ペンション　門倉山ヒュッテ」

〒967-0015
福島県南会津郡田島町滝原中山1727-2
TEL：0241-66-2686
FAX：0241-66-2687
E-mail：kot@ceres.ocn.ne.jp
東武鬼怒川線野岩鉄道「会津高原駅」より
車2分・徒歩18分

山ん中のカナディアンログハウス

4月1日からいよいよ渓流釣りのシーズン。連休は桜が満開になります。そろそろ山菜採りの季節にも入ります。フキノトウから根曲り竹まで楽しめます。山菜の季節は9月いっぱい大丈夫です。お食事は和食中心にしています。名物の熊肉、鹿肉もご注文ができます（要予約）。この新聞を見てご利用の方は、自家製果実酒又は季節のお料理一品をサービスさせていただきます。ぜひ、ご家族・ご友人でお越しください。お待ちしております。

国内旅行

～海抜0メートルに咲く高山植物～
春の花を楽しむ礼文島と利尻島

①5月27日（日）～5月31日（木）
②6月3日（日）～6月7日（木）
①②147,000円
★北海道の大雪山なら1600メートル以上でないと見られない花々が低地で咲き乱れる季節を訪れます。

春を彩る　アポイならではの高山植物との出会い
“花の宝庫”アポイ岳とニセコ

●5月20日（日）～5月24日（木）
旅行費用：138,000円
★標高800mの低さで高山植物を満喫。
★アポイにしかない花々の咲く季節。

高山植物を眺めながら最果ての地を歩く
羅臼岳登山と知床五湖散策

●7月15日（日）～7月19日（木）
旅行費用：165,000円
★国後島を間近に望みながら羅臼岳を登山
しお花畑を楽しみ、自然保護の話なども。

日本で唯一咲く野生の利尻ヒナゲシを見る「初夏のお花畑」
利尻富士と礼文島

●7月1日（日）～7月5日（木）
旅行費用：148,000円
★雪解けの利尻富士を登山し、日本で唯一咲く野生のヒナゲシの時期を楽しむ。

日本最北端の名峰・利尻富士をあるく
利尻富士登山と礼文島

①7月22日（日）～7月26日（木）
②8月26日（日）～8月30日（木）
①②149,000円
★名峰・利尻富士での登山を地元の方による案内で利尻島の自然を心ゆくまで満喫。

広大なブナの原生林の中をゆったり歩く
白神岳登山とブナ林を歩く4日間

①6月10日（日）発　②7月25日（水）発
③8月27日（月）発
①117,000円　②③121,000円
★標高1232m、日本海を一望できる白神岳を現地案内人が同行し安心の登山。
★地元の人の自然保護運動についてのレクチャーを聞く

山麓にゆったりと島を満喫する
屋久島・自然体験5日間

①5月27日（日）発　②7月22日（日）発
③8月26日（日）発
①147,000円　②145,000円　③143,000円
★終日、縄文杉への登山。現地のガイドの案内で自然をより満喫。
★自由行動が１日あり、ご希望の方には宮之浦岳登山、白谷雲水峡散策など。

琉球の歴史に触れつつ平和の問題を考える
琉球探訪沖縄本島と伊江島4日間

①8月26日（日）発　②9月18日（火）発
①99,000円　②92,000円
★南部戦跡・中部基地をしっかりと地元の平和ガイドにより理解を深める平和の旅。

未知の大自然ヤンバルを歩く
「美ら山」山原ハイキング

●7月22日（日）～7月25日（水）
旅行代金：101,000円
★緑豊かな未知の大自然・亜熱帯「やんばる」の珍しい動植物に触れる旅。

フィンランド

政府観光局こんにちは

日本局長　能登　重好さん

今年はオーロラの当たり年

最近フィンランドに行ってきましたが三日間で二晩はよくオーロラが見えましたね。時間帯は早い時間（一八時～〇時頃）に良く見えました。北欧のオーロラは出る時間が早いんです。二一時～二二時頃がピークとなります。

北欧といえばオーロラのイメージが強いのですが、新しい企画などがあれば教えてください。

ありますよ。新企画で大人の林間学校というツアーを計画しました。

自然の中のアクティビティーを楽しみましょうという企画です。今までは釣りやハイキングにいって楽しむ企画が一般的でしたが、この企画は自然の中での生活や知恵、自分たちがわからない事を体験して学びましょうという内容です。

たとえばどのような事を体験して学ぶのですか。

森の中で火をおこすとか。

え！　森の中で火をおこしてもいいんですか？

はい。フィンランドの森は火をおこしても良い場所がとても多いんです。

森の中に入って風向きなどを調べて、かまどを作って火が燃えるように作ります。それからコンパスを使って森の中を歩いたり、夜釣りに行くなど。冬はスノーシュー（かんじき）を履いて森の中を歩いて雷鳥などを捕まえるわなを作ったりします。

学校を卒業するためには？

いままで習った事を総合して卒業試験があります。火をおこしてお湯を沸かしてから出発します。

森の中の生活

試験官が目を光らせているわけですね？

そんなに厳しくはありません。一応試験なので色々なポイントがあって、今まで習った事の問題が途中々に置いてあります。その答えの内容と時間とユーモアを点数にして優勝や準優勝チームを決めます。

チームは何人くらいですか？

だいたい二～三人のチームに分かれて行います。最後にトナカイの耳で作った卒業証書をもらって終了となります。

おもしろい企画ですね。今までたぶんスノーモービルなどが主な企画でしたが、自然の中に入ってふれあえる企画は癒しの世界かもしれませんね。

オーロラを見るためのポイント

ロヴァニエミではオーロラを追いかけるバス「モイモイ号」を運行しており、気象庁が出している天気予報に基づいて出そうな地域に電話確認をしてバスで向かう方法が見える確率を高くします。

現地の方もよくオーロラを見に行かれるのですか？

現地の人はオーロラが出ても、日本人にとっての夕焼けくらいの感覚ですね。

オーロラが出ると明日は晴れとか（笑い）。

オーロラを撮影するためには？

デジタルカメラや一眼レフカメラで十分です。だいたい一〇～一五秒開放にすればいいと思います。でもオーロラの光り方によっても若干違います。

秋になると黄葉が美しいと聞きますが？

はい。日本と違って紅く染まるのではなく黄色に染まります。特にラップランドの地域は黄葉に特徴があります。日本と同じように一ヶ月位かけて山の上から下まで染まっていきます。上の方は白樺が多いので黄色が中心ですが、下はベリーが多いので赤く染まります。

ラップランドは緯度が高いのでちょっとした山でも三〇〇～五〇〇ｍ位登れば高山植物がいっぱいの状態です。

福祉について

最後にフィンランドの福祉についてお伺いします。

そうですね。高齢者・障害者・児童の福祉を見るとその国の財政状況やシステムなどもよくわかります。フィンランドは福祉財政予算を地方の都市に分散して地方はその予算を地域にあった事に自由に利用できるんです。

フィンランドは〇歳児から福祉に携わっているのです。「タンペレ市」では年齢に関係なく活動できるボランティアセンターがあり、最年少のメンバーは生後四ヶ月で、老人に抱かれることが仕事になっています。

私たちもフィンランドの自然や生活、福祉といったテーマで企画を作れるように勉強します。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

プーコ（ナイフ）
ククサ（白樺の木で作ったカップ）
マッチ
卒業証書（トナカイの耳）

ムジカ　～創立25周年記念コンサート～

吹く風は道しるべ

時代の流れが、人々の思いが、風となって吹いてくる
風に導かれて歩いてきた私たちの25年、いまここに

●2001年5月27日（日）午後5時～　文京シビックホール（大ホール）
・鉛野泉／志村泉ピアノデュオ「抜粋三文オペラ」「リベルタンゴ（ピアソラ）」他
・中澤桂ソプラノ独唱「この道」「ともしび」「死んだ女の子」他
・ピアノリレー演奏　～20人のピアノ仲間による～　林光作曲「ピアノの本」より
・合唱のよろこび　～250人の大合唱～「祖国」「ふるさとの歌」他
●チケット　S：¥4,800　A：¥4,300　B：¥3,800　C：¥2,800
<主催・問い合せ先>
「ムジカ　音楽・教育・文化研究所」
TEL：03-3356-5713　FAX：03-3354-0751

秋の北極圏　大自然の旅

スカンジナビア半島の最北・「トップ・オブ・ヨーロッパ」と呼ばれる北極圏（北緯66度33分以北の地域）。9月の北極圏は高緯度に位置するにも関わらず、メキシコ湾流の影響で比較的温暖。フィンランド語では蚊もいなくなったこの季節を**「ルスカ」の季節**と呼び、都市に住む人達まで紅葉を求めて森や湿原に出かけ、きのこ採りやハイキングを楽しみます。

ヨーロッパ大陸の最先端「ノールカップ」、峻険なフィヨルド、古よりトナカイを放牧するサーメ民族とその文化、白樺の木やブナの黄葉、ナナカマドの赤い実と地面のベリー類の葉も真っ赤に紅葉し、目にも鮮やかなコントラストの世界、この季節だからこそ見られる風景です。そしてあわよくば、9月中旬から現れるというオーロラも。北極圏のオーロラは泊るホテルから眺めることができるので、毎晩夜空を眺めるのが楽しみです。

「ルスカ」の森とノールカップ　サンタクロース村へ

フィンランドとノルウェー11日

9月9日（日）～19日(水)　562,000円

★フィンランドの**北極圏リゾート・サーリセルカ**と**ユッラス**へ。トナカイの放牧地ウルホケッコネン国立公園、釣りやハイキングが楽しめるユッラスの色鮮やかな秋の風景と自然をたっぷりとお楽しみください。自然に詳しい日本語ガイドが同行します。

★トナカイ肉と川で獲れたサーモンを主にしたラップランド料理をご賞味。森の幸クラウドベリーの味も格別。北海の漁場で獲れた新鮮な魚料理の味もお試し下さい。

★ヨーロッパ大陸の最北端**「ノールカップ」**へ

★**「サンタクロース」の住む町**ロヴァニエミへ

サーメ人の親子

ノールカップと沿岸急行船

ノルウェー　北極圏の旅11日

9月16日（日）～26日（水）　570,000円
定員20名（最低実施15名）
日本より添乗員同行

★ヨーロッパ大陸の最北端**「ノールカップ（北岬）」**へ

★ホニングバーグからスヴォルバーまで**沿岸急行船**に乗り、1泊2日の船旅。雄大なフィヨルドの景観楽しむ。

★バスで**ロフォーテン諸島**へ。絵のような風景や街巡り。ロフォーテン近郊のスヴォルバーでかつて鱈を追ってこの島に集まってきた漁師たちが漁の合間に滞在した小屋を改造した、別荘のような宿泊施設・ロルブーに泊る予定。

★ヴァイキング時代の遺跡が残る**ヴォルグ**、トナカイの放牧地**セーナランド**、豊富な漁場をひかえ、活気のあるホニングスバーグなど

沿岸急行船

限定企画

森と湖のフィンランド

紅葉の北極圏を歩く

9月19日（水）～9月26日（水）　8日間　445,000円

◆フィンランドの北極圏では、短い夏の後で束の間の紅葉の季節が訪れます。地元の人々が「ルスカ」と呼ぶこの時期には短い秋を競い合うかのようにいっせいに森は彩られます。

◆南北の二つの国立公園を訪れ、それぞれの紅葉の時期を楽しみます。北極圏ではオーロラに出会うチャンスもあります。

◆北極圏では、キャンプ体験も予定しています。

◆森の中でのきのこ狩りや、きのこ料理を味わう楽しみもあります。

①成田✈空路ヘルシンキへ　到着後市内見学
②✈北極圏のリゾート地　サーリセルカへ
③④北極圏の森の中でのウォーキング（うち1泊はテントでの宿泊
⑤✈北極圏からフィンランド南端のエスポー市へ
⑥ヌークシオ国立公園のウォーキングときのこ狩り
⑦出発まで自由散策　夕方ヘルシンキ発✈帰国の途へ
⑧成田着

大自然が織りなす秋景色

スイス・アルプス
山と花と人里
宮本和郎　日本画展

会期●2001年4月8日（日）～14日（土）
AM10時～PM7時（初日：PM2時～PM7時）
会場●東京交通会館地下ゴールドサロン　TEL.03-3215-7933
JR有楽町駅北口正面

ごあいさつ

自然の素晴らしさと生命の輝きを求めて画集「スイス・アルプス花の旅」を描いてから3年。

さらに、スイス・アルプスを描いてきたのは、自然の大切さ。その自然と人間の共存のありようが実感させられる所。という思いがいっそう深まってゆくからでしょうか。

多くの人々が痛感している自然への思い。その思いと通じあえることを願って、竣峰とその山峡を包む森林や草地に咲く花ばなや牧草地に点在して生を営みつづけている人里など、50点を展示致します。

是非ご来場を賜りますよう、ご案内申し上げます。　宮本和郎

干草小屋（ソーリオ）P12号

アルプスへの誘い

2000年まで7年にわたりヨーロッパ·アルプスを歩いて描いた宮本和郎先生が、97年に続き、東京でアルプスの作品だけを集めて個展を開きます。

今回展示される約50点は、最近の3年間の作品です。秀峰を描いた作品の「山」が一段と量感と迫力を増した感があります。描かれた「花」の清楚で生命力にあふれた姿は変らぬ魅力です。ただし、訪れる季節や地域が広がり、大変珍しい花々に出会えるのも楽しみです。

「人里」も一つのテーマですが、訪問した山域が広がり、モンブランのイタリア側の村やスイス東部のソーリオなど観光地とは異なる山里の風景や民家も数点あります。

一つの空間に、アルプスの山、花、人里の作品だけを集めてかもしだされるスイスの空気は、訪れた者だけが感じられる涼気と、アルプスへの誘いに満ちたものとなることでしょう。（Y・I）

ビーチホルン（レッチェンタール）8号

「花の旅」同窓会のお知らせ

個展を機に「スイス·アルプス　花の旅」などにご参加いただいた皆様の交流会をもちたいと思います。今回は特別に個展会場を「同窓会会場」にもさせていただけます。久しぶりに懐かしいお顔と宮本先生にお会いして楽しいひと時を過ごしませんか。

「スイス・アルプス花の旅」同窓会
●4月9日（月）午後6時～8時
「ヨーロッパ・アルプス」同窓会
●4月11日（水）午後6時～8時

＊お問い合わせは、
ヨーロッパ・アルプス担当：市村まで。

BOOK GUIDE

銀河鉄道の旅　～報告書　第5集～
乗って、聞いて考え、楽しんだ

「鉄道の旅　見聞録」

定価／1,000円（本体952円）

～掲載内容～
<1996年>
ドイツ・銀河鉄道の旅
<1997年>
ベトナム、カンボジア・銀河鉄道の旅
<1998年>
フランス・銀河鉄道の旅
<1999年>
メキシコ・銀河鉄道の旅

編集・発行：ふるさと線を守る全国実行委員会
<連絡先>TEL：03-3821-6466（芳潤堂気付）

北京・ウランバートル・テレルジ・エルデネット
第15回　銀河鉄道の旅
～北京＆モンゴル～

8月19日～29日（11日間）詳細近日発表
★北京からモンゴルへシベリア鉄道の旅
★北京で抗日記念館と万里の長城をじっくり見学
★ウランバートルで鉄道労組訪問＆駅見学
★保養地テレルジでゲル（遊牧民族移動式住居）に宿泊、モンゴル料理体験や乗馬などの楽しみも
★ローカル線で鉱山の町エルデネットへ小旅行

①成田・福岡・関西空港発✈北京へ、着後、本場中国料理の夕食<北京泊>②終日：盧溝橋抗日記念館、万里の長城見学<北京泊>③シベリア鉄道でウランバートルへ出発🚕、深夜モンゴル入国<車中泊>④🚕ウランバートルに到着、午後にウランバートル市内見学（自然史博物館、宮殿など）<ウランバートル泊>⑤午前、モンゴル鉄道労働組合連盟を訪問＆懇談、午後は鉄道歴史博物館を見学します。夕刻🚌保養地のテレルジへ<テレルジでゲルに宿泊>⑥終日、テレルジに滞在、亀石見学、乗馬体験やモンゴル料理教室でお楽しみください。<テレルジでゲルに宿泊>⑦自由行動後、🚌再びウランバートルへ到着後ウランバートル駅見学<ウランバートル泊>⑧終日自由行動、夜🚕鉱山の町エルデネットへ<車中泊>⑨到着後、エルデネット市内見学（大露天掘りの銅鉱山など）夕食後🚕ウランバートルへ<車中泊>⑩🚕朝、ウランバートル到着後再び中国へ✈夕刻、北京に到着、北京市内散策（王府井などへ）<北京着>⑪午前、帰国の途へ✈午後、成田・福岡・関西空港着

丹野 章先生 写真講座

旅行から帰り、撮ってきた写真を見て、後悔した経験はありませんか。手がぶれていたり、光の具合がはっきりしない、ポイントを絞ったつもりが上手くゆかないなどなど。

一眼レフを使って写真の撮り方をレベルアップしましょう。人物、静物、風景など機械任せの撮り方から「納得の一枚」へ。プロの写真家の技術を学びましょう。

●次の日程で午後六時半から九時まで。
会場はいずれも富士国際旅行社　会議室にて。

■基礎コース（計3回）
6月1日（金）・6月8日（金）・6月15日（金）
会費：20,000円

■補習コース（計2回）
6月29日（金）・7月6日（金）
会費：15,000円

＊講義で使うカメラは一眼レフで。これから購入される方は第一回のときにご相談ください。

●定員10名（先着申し込み順受付）
基礎コースは3回、さらに実際の色に近く撮れるスライドの撮り方について補習コースを2回。

●お申し込み・資料請求は：弊社写真講座係（筒井）まで。
●申し込み締め切り：4月25日（定員に満たない場合は中止することがあります）

第五回　写真家　丹野　章先生と行く
南イタリアとシチリア　9日

ソレント

5月6日(日)～14日（月）　397,000円
★18世紀後半、あこがれのイタリア旅行を決行し、ナポリ、シチリアを訪れた文豪ゲーテ。旅人ゲーテの感動は「イタリア紀行」の文とスケッチで今に残ります。
★21世紀の旅人はカメラを手段に「私の『イタリア紀行』」を撮ってみましょう。丹野先生といっしょに光輝くティレニア海、風光明媚なナポリ、アマルフィ、シチリアに残るギリシャ遺跡。異民族による支配が生んだ南イタリアの混合文化は北とは全く異質のイタリアをみせてくれます。
★ピザ，スパゲッティ、日本でもお馴染みの「サンタルチア」や「オーソレ・ミオ」はもともとナポリ民謡。本場ナポリで本物の味とカンツォーネを体験しましょう。

①東京・大阪発✈ミラノ経由✈**ナポリ**着🚌**アマルフィ**（計3泊）②午前：ベスビオ火山の麓**ポンペイの古代遺跡**、ナポリのピザ・レストランで多種多様な本場ピザを。午後：ナポリ市内見学。夜は**カンツォーネのタベ**③**「世界遺産」**となっている**アマルフィの海岸**、**ソレント**を走り、アラブの影響を濃くするアマルフィ市内見学④アマルフィ🚌ナポリ✈**シチリア**・パレルモへ。パレルモ市内見学（**モンレアーレの丘**）🚌アグリジェント（計2泊）⑤ギリシャ遺跡の**「神殿の谷」**、アグリジェント市内見学⑥🚌古代ローマの別荘地・モザイクが残る**ピアッツァ・アルメリーナ**🚌**「地上の楽園」タオルミーナ**（計2泊）⑦タオルミーナ市内見学と自由行動⑧🚌カターニャ✈ミラノ経由（機中泊）⑨東京・大阪着

海外通信 イスタンブール

私のイスタンブール

林　輝美

地の利に恵まれた都

ボスフォラス海峡を挟んで、ヨーロッパとアジアを結ぶイスタンブールは、かつてビザンティウム、コンスタンティノープルと呼ばれ、二千数百年の歴史を誇る都である。

海をかき分ける船の白い飛沫、飛び交うカモメを見ながら、定期船で海峡を渡ると、旧市街のトプカプ宮殿、ブルーモスク、アヤソフィアの堂々とした姿が目に入る。その横には金角湾、ガラタ塔、そして後ろを振り返ると海峡沿いに凛と立つドルマバフチェ宮殿、さらに後方には、雄大なボスフォラス大橋がそびえ立つ。

七つの丘を持つイスタンブールの町並みは、起伏に富んで立体的。あちこちに点在するモスクも、森も、オレンジ色の屋根の家々も、全部が丸ごと目に飛び込んで来る。地の利に恵まれたこの都を海から眺めると、イスタンブールの壮大さを肌で感じることができ、気も大きくなってしまうようだ。

イスタンブールの休日

主人も私も散歩が大好き。天気のいい休日には、必ずイスタンブール散策に出掛ける。夏に海峡沿いを散歩すると、釣り人と、道ばたの小さなスペースでピクニックを楽しむ人たちで溢れている。花が咲き乱れ、鳥のさえずりが聞こえる公園でも、バーベキューの香りが漂って来る。日が暮れるまで、チャイ（お茶）を飲みながら、お喋りと編み物に興じる女性たち、昼寝のお父さん、ボール遊びで走り回る子供たちで賑わう。どこへ行っても海の眺めは最高だ。木陰のカフェで休息すると、気持ちのいい風が吹いて来る。

夕暮れになると、家の窓から外を眺めるのが私の日課だ。ピンク色に染まった空がだんだん濃い紫になり、闇が迫って来る。モスクの尖塔や、家々に明かりが点いて、薄暗がりの空に月と星が現れると、昼間とは違ったパノラマ風景のイスタンブールが広がる。

ルメル・ヒサール（要塞）とボスフォラス海峡

家庭では女王様！

色々な価値観を持つ人々が暮らすこの街も、断食月になるとちょっぴり宗教色が強くなる。一日の断食明けの食事を楽しむ人たちの様子は、贅沢なお祭りのようだ。スーパーマーケットは買い物客でごった返す。

外国人である私にとっても、何だかワクワクする、いつもと違った一ヶ月間になる。

クリスマスやバレンタインデーも祝ってしまう混沌さは、日本人の私には嬉しい限り。おまけに女性は大切にされていて、家庭内での発言力も強く、家の中ではクラリーチェ（女王様）。兵役があるせいか、男性たちは優しく、頼もしい。ある日、外姿の何と逞しかったこと！

こんな活気のあるイスタンブールを、ぜひご自分の目で確かめにいらして下さい。

著者　となりはご主人

で怒声が聞こえるので窓から見ると、派手な夫婦喧嘩をやっていた。奥さんだって負けてはいない。互角に闘っている（？）

林　輝美（はやし　てるみ）
一九五二年十一月三重県生まれ。早稲田大学第一文学部にて心理学を学ぶ。一九九七年一月、日本語と英語ガイドのタンゼル・デミレル氏と結婚のため、イスタンブールへ。

藤本了江さんの（ふじもと すみえ。家庭科教育研究家。日本ＡＡＬＡ理事）

エスニック料理

連載 15 回

チリ ●パエーリア●
（チリ風炊き込みご飯）

①白ワイン25ccにサフランをつけて20分くらい置いて色を出す。
②水3カップに固形スープの素を入れて煮、スープを作る。
③パエーリア鍋に油を熱してニンニクの薄切りとエビを炒め、火が通ったらエビを取り出し、鶏肉と豚肉を炒めて取り出し、イカを炒めて同様に取り出す。
④鍋を洗わずに縦８つ切りのタマネギを炒め、くし切りのトマトと残りの白ワインを入れて一緒に炒める。
⑤④の上に炒めておいたエビ、イカ、鶏肉、豚肉とグリンピース、1/3に切った三度豆、①のサフラン、チリペッパー、米、アサリを入れて混ぜながら炒める。
⑥⑤にスープを加え、中火から強火にして沸騰させた後、縦４つ切りにしたピーマンを入れて塩で調味し、弱火で10分くらい炊く。

かもがわ出版「家庭でできる　エスニック料理」より

材料（４人分）

米	2カップ
サフラン	1/4ビン
白ワイン	50cc
固形スープの素	2個
サラダ油	大さじ2
ニンニク	1片
エビ	4尾
鶏もも肉	100ｇ
豚（骨付き）肉	小4個
イカ	50ｇ
タマネギ	1個
トマト	2個
グリンピース（生）	50ｇ
三度豆	10本
チリペッパー	少々
アサリ	16個
ピーマン	2個
塩	少々

中国の旅

戦争と平和・真実は何か　1937南京を検証
中国平和の旅　８日間

5月16日（水）～ 5月23日（水）	198,000円
5月30日（水）～ 6月 6日（水）	198,000円
6月27日（水）～ 7月 4日（水）	208,000円
7月 4日（水）～ 7月11日（水）	215,000円
7月18日（水）～ 7月25日（水）	215,000円
8月15日（水）～ 8月22日（水）	225,000円
9月14日（水）～ 9月21日（水）	208,000円
10月17日（水）～10月24日（水）	205,000円

<行程>上海②→紹興①→上海①→南京②→上海①
★南京大虐殺紀念館見学はもちろん、証言者のお話も伺い、日本軍の蛮行を自分の目・耳で、確かめます。
★紹興へ足をのばし、秋謹の旧居や記念碑を訪れます。断崖絶壁の奇景・東湖や紹興酒工場見学＆試飲も楽しみです。

西域ロマン　シルクロード
砂漠の大画廊　西安と敦煌　６日間

6月14日（木）～6月19日（火）	228,000円
8月23日（木）～8月28日（火）	248,000円
9月13日（木）～9月18日（火）	248,000円

<行程>西安②→敦煌②→西安①
★秦始皇帝兵馬俑、楊貴妃ゆかりの華清池などロマンあふれる見学地で悠久の歴史を感じていただけます。
★仏教美術の最高峰・莫高窟。1000年を経た今も鮮やかな壁画や仏像を専門係員の案内で１日じっくり見学します。
★美しく巨大な砂の山・鳴沙山や3000年枯れたことがないと言われる月牙泉も訪れます。漢詩の世界にただ感動。
★シルクロードの起点西安と東西文化の十字路・敦煌と、魅力あふれる2都市に滞在するゆったり旅程。

高原の草原と少数民族
雲南の自然と少数民族　８日間

5月 9日（水）～ 5月16日（水）	195,000円
6月13日（水）～ 6月20日（水）	205,000円
8月 8日（水）～ 8月15日（水）	225,000円
9月19日（水）～ 9月26日（水）	220,000円
10月17日（水）～10月24日（水）	218,000円

<行程>昆明①→中甸②→麗江②→大理②
★ジェームズ・ヒルトンがその著書「失われた地平線」で描いたとされるチベット族の「桃源郷」中甸（3260m）には、高原の草原（花の海）と湖が広がります。
★澄み切った青空に標高5596mの玉龍雪山を望む世界遺産の古都にナシ族が住む「高原の蘇州」麗江で旧市街の石畳を歩けば写真館や漢方薬、雑貨店など麗江の暮らしにふれることもできます。

日本の軍隊は中国で何をしたか　証言731部隊
中国平和の旅　８日間

5月16日（水）～ 5月23日（水）	245,000円
5月30日（水）～ 6月 6日（水）	245,000円
6月27日（水）～ 7月 4日（水）	245,000円
7月 4日（水）～ 7月11日（水）	246,000円
7月18日（水）～ 7月25日（水）	246,000円
8月15日（水）～ 8月22日（水）	246,000円
9月14日（水）～ 9月21日（水）	245,000円
10月17日（水）～10月24日（水）	238,000円

<行程>北京②→ハルピン②→瀋陽②→北京①
★731部隊で何が行われていたか。証言者のお話を伺って日本軍の犯した事実を再確認します。
★満州事変勃発地、柳条湖で九･一八事変博物館や平頂山殉難同胞遺骨館などを見学。平和への思いを新たにします。

四川・雲南の自然と文化遺産を訪ねる
秘境・九寨溝と麗江　１０日間

5月14日（月）～ 5月23日（水）	298,000円
6月18日（月）～ 6月27日（水）	298,000円
7月30日（月）～ 8月 8日（水）	309,000円
8月20日（月）～ 8月29日（水）	309,000円
10月22日（月）～10月31日（水）	305,000円

<行程>成都①→松潘①→九寨溝②→茂県①→昆明①→中甸①→麗江②
★四川省の北辺の秘境。石灰棚の奇観が忽然と姿を現し「人類遥籃の地」の伝説を持つ黄龍と翡翠の如き瀑布の地に九つのチベット族が静かに佇む「夢幻仙境・童話の世界」九寨溝。
鬱蒼と茂る原始林に抱かれたコバルトブルーとエメラルドグリーンな世界を心ゆくまで堪能できる日程です。

棚田と雲南の自然
雲南省の自然と古都　８日間

5月16日（水）～ 5月23日（水）	194,000円
6月20日（水）～ 6月27日（水）	203,000円
8月 1日（水）～ 8月 8日（水）	228,000円
10月31日（水）～11月 7日（水）	220,000円

<行程>昆明①→建水②→元陽①→麗江②→昆明①
★元・明・清時代の古寺や建物の残る街「建水」で２泊して、街から約30キロの場所にある燕子祠。この名前の由来でもある燕がたくさんの巣を作っていることでも有名。
★丘陵の広がる水田風景で知られる「元陽」で日本でも注目を集めている棚田を見学します。
★麗江ではリフトに乗って3400mの「ヤク平」で景色や高原の散策をします。（ヤク平は日本でもまだ未紹介です。）

アウシュビッツをいかに伝えるか

〈21世紀の子どもたちに〉

二十一世紀の子どもたちに戦争やホロコーストを語りつぐために、「ポーランドの戦争史跡を訪ねる旅」を夏休みに計画し、同行の仲間を探している尾崎俊二先生（開成高校・英語教諭）にお話しをうかがいました。

§　§　§　§　§

高校生にポーランドの戦争遺跡の話をされたと聞きましたが。

尾崎　世界史の先生の授業時間をいただいて、アウシュビッツ強制収容所とホロコーストの話をしました。過去三回訪問したときの写真などをモニターに拡大して写し出すと、生徒たちの間に緊張が広がり、話にもよく耳を傾けてくれました。

絶滅収容所を中心に見学されるようですが、きっかけは何ですか。

尾崎　そうですね。アウシュビッツやホロコーストの問題は、今も完全に過去の問題とはいいきれない。半世紀以上経っても、まだいろいろな動きがあります。ドイツ企業による強制労働の補償の問題のほかにも、つい最近、ＩＢＭの技術を使ったパンチカード・マシンがユダヤ人の登録に使われたことで、裁判がおこされたり、ナチの戦犯の追及なども、時々新聞に小さい記事ですけど出ています。やはり、人間が人間の行為に対して、どう責任を持つべきなのかを深く考えたいと思っています。

今年はかなり専門的な旅行を考えているようですが。

尾崎　一九三〇年代の半ばから一〇年間ぐらいで、ドイツがその支配地域にたくさんの収容所を作りましたが、絶滅収容所というのは、アウシュビッツ・ビルケナウだけではなくて、現在のポーランドに、その他五ヶ所ありました。

アウシュビッツやマイダネックのように、資料がかなり保管されている記念館もありますが、昨年行ったトレブリンカ（絶滅収容所）には、女性が一人入っている小さな受付のボックスと掲示板しかありませんでした。でも、広大な収容所跡は、膨大な数のユダヤ人犠牲者の墓場となっていて、非常に印象深いモニュメントがありました。

アウシュビッツ収容所

尾崎先生

大小さまざまな荒削りな石（実は墓石なのですが）には、収容者がトレブリンカにどこから送られてきたのか刻んでありました。一万七千個の石の印象が強烈でした。

ちょうど、イスラエルの高校生のグループも、学校の活動で来ていました。モニュメントの前で、女生徒がグループに何かをしゃべっていましたが、おそらくあの子たちの多くは近親者にホロコーストの犠牲者がいるのだと思います。イスラエルの子どもたちはホロコーストを忘れないために、過酷な精神的負担を負っていると思いました。

その他の絶滅収容所は、どんな所ですか。

尾崎　ソビボルとヘウムノは小さな記念館があるようですが、多分ベウジェツには、そういうものもないかもしれません。これらの絶滅収容所は、一九四二年一月にベルリンの近くのバンゼー湖畔で行われたバンゼー会議（ユダヤ人問題の「最終解決」を決めた）の前後に、短期間にユダヤ人を絶滅させるためだけに作られた収容所です。ただ、ナチが破壊したり、反乱が起こってほとんど何も残っていませんが、絶滅作戦の全体を確かめたいと思っています。

当社のお世話した旅行団では、マイダネックやアウシュビッツ収容所で、実際収容された方から直接体験談を聞いたこともあるんですよ。

尾崎　私もアウシュビッツで、体験者のお話しをうかがったことがあります。今回はアウシュビッツでも、自分で見たいところをゆっくり見たいという気持ちもあります。ただ、展示されているものだけではなくて。

ドイツやオーストリアの収容所は行かれましたか。

尾崎　ドイツ、オランダなどの収容所をいくつか訪ねましたが、系統的には次回に計画したいと考えています。

今回の旅行に期待するものはどんなことですか。

尾崎　戦争だとかジェノサイドに関連しては、今、戦後五〇年以上過ぎても過去をどうみるかとか、責任の問題が問われています。日本のアジアに対する問題だけではなく、オランダ人やイギリス人捕虜の扱いの問題もあります。また、過去の戦争だけではなくて、つい最近のボスニアやコソボの問題をはじめ、アフリカのルワンダの大虐殺、南アフリカのアパルトヘイトの過去とどう和解するか、中南米にも軍事政権時代の犯罪など、いろいろな問題がありますね。その中で、アウシュビッツとホロコーストが語りかけるものから考え方の拠り所を自分なりに探してみたいと思っています。

お忙しい中、ありがとうございました。

ビルケナウ収容所跡

「資料　ドイツ外交官の見た南京事件」

編集・翻訳／石田勇治　編集協力／笠原十九司・吉田裕
大月書店　定価（本体3,400円+税）

初めて公開される
迫真の現場リポート

暴虐の嵐が吹きすさぶ南京で、駐華大使館南京分館の勤務についていたドイツ人外交官たちは、南京城内と近郊で起きた事件についてリアルな報告を刻々と書き送っていた。ラーベ『南京の真実』をもしのぐ貴重な資料が、南京の「その日」を再現する。

個人旅行 お仲間募集中

ポーランド戦争史跡を訪ねる旅

～グダニスクからナチス強制収容所へ～

開成高校の尾崎俊二先生（英語）は8月に下記のようなポーランド旅行を計画しています。過去に3回も行っているのでひとりでも行きたいと思っていますが、4名以上になれば専用車の利用で費用が安く、時間効率がよくなり、現地通訳を必要な個所でつけることができます。10人になれば、専用バスを利用し、全行程通訳と、各地でガイドをつけることもでき、絶滅収容所跡を一度に巡る初企画も楽になります。出発前に勉強会をしたり、戦争史跡についての教材または本をまとめることも検討してみたいとのこと。21世紀の子どもに戦争を語りつぐための、調査の旅の仲間になりませんか。

＜旅行の概要＞
8月14日（火）～25日（土）　12日間

＜旅程＞
①成田→コペンハーゲン→グダニスク(2泊)
②シュトゥトホーフ収容所とグダニスク市内見学
③→ワルシャワ市内見学（3泊）
④トレブリンカ収容所跡の見学
⑤ウッチとヘウムノ収容所跡の見学
⑥→ルブリン（2泊）マイダネック収容所の見学
⑦ソビボルとベウジェツの収容所跡見学
⑧→オシュフィエンチム（1泊）ビルケナウ見学
⑨アウシュビッツ収容所見学、プワシェフ収容所跡、クラクフ泊
⑩クラクフ市内見学→ワルシャワ泊
⑪ワルシャワ→機内泊
⑫成田着

＜旅行費用概算（4名として一人あたり）＞
＊航空賃とホテル代で約32万円
＊現地交通費と通訳・ガイド代約15万円

＜問い合わせ・連絡先＞
旅程の請求は、富士国際旅行社（担当・市原）へ
尾崎俊二先生　Tel/Fax.042-957-2856

TRAVEL EYES

あんなトコロ
コンナところ

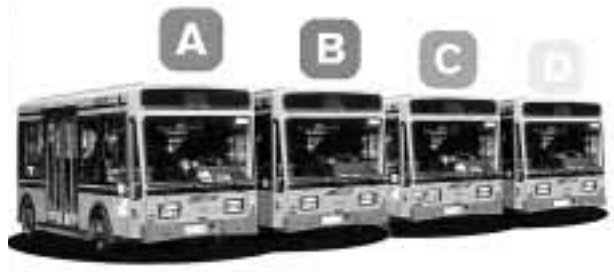
イタリア②

ガイドブックにない フィレンツェのミニバス

旅遊子

環境優先

イタリア中部のフィレンツェはルネサンスの花の都として世界中から多くの観光客が訪れる。歴史的中心の旧市街は中世の街並みをそのまま残し、往事にタイムスリップしたような錯覚を感じる。



ローマ、ミラノなどの大都市は地下鉄が開通しているが、フィレンツェにはない。

かつてシニョーリア広場を掘り返しているのを見たが、遺跡が発見され、長い間調査が続いていた。この街はいたるところに遺跡、遺構があり、とても地下鉄は無理なのだ。久しぶりに広場を訪ねたら、何事もなかったかのように元通りの石畳が敷き詰められていた。

チェントロストリコは、大型の車や地域外の車はすべてシャットアウト、もちろん観光バスも入れない。

その後の経緯はわからないが、そこで登場したのが、環境保全と遺跡の保存を兼ねたミニバスだと思われる。

チェントロストリコを隈なく回るミニバスは、A～Dまで四路線が走っている。

一回乗車すると他の市内バスと同様一五〇〇リラかかるが、一ヶ月有効で二五〇〇〇リラ（約一五〇〇円）のお買い得な格安パスもある。

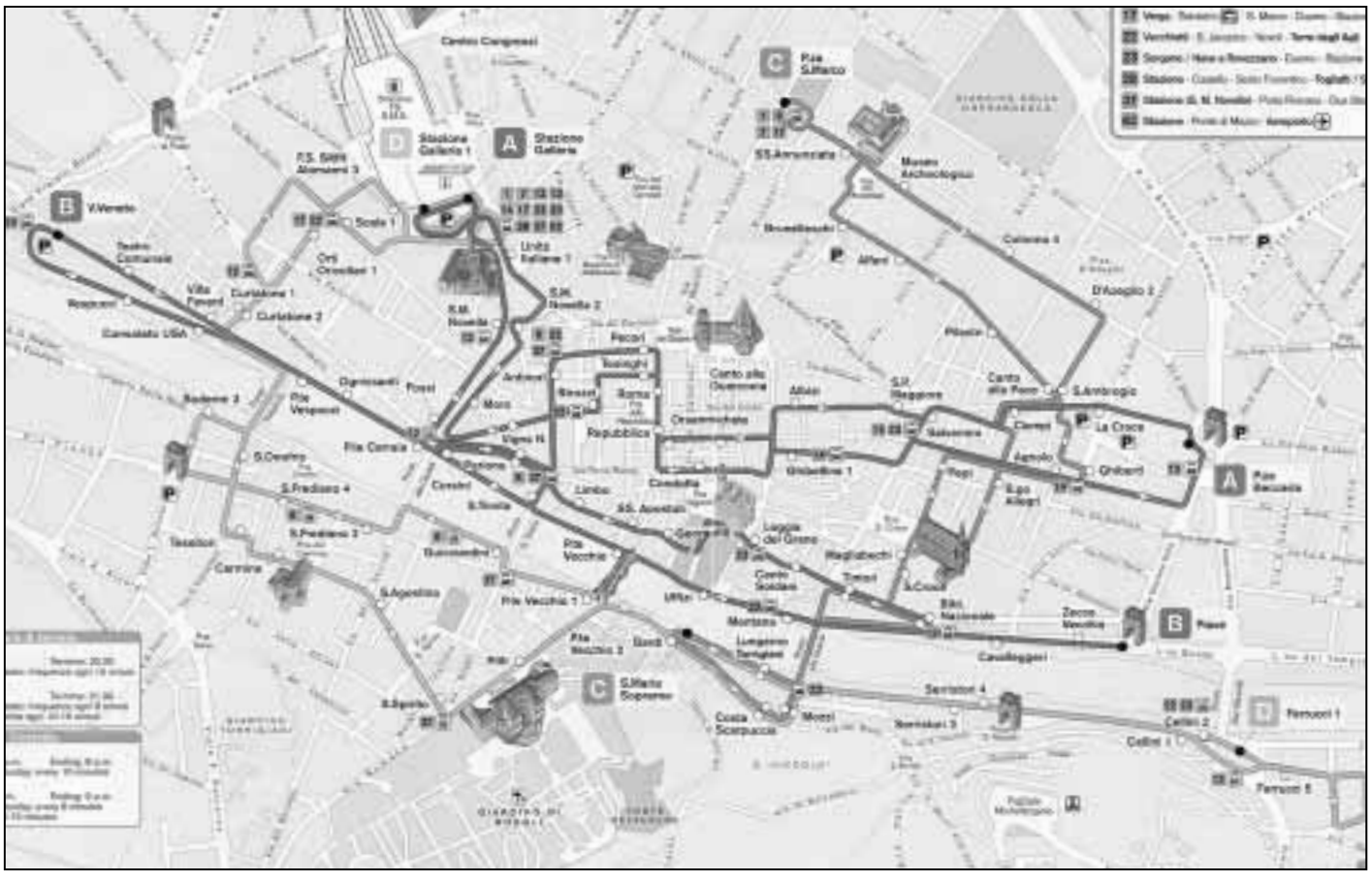
ウフィッチ、アカデミアをはじめとする美術館など、図のように行きたい所はほとんど網羅していて、運行間隔も一〇分も待てばすぐ来るくらいだ。

健脚の諸氏は歩いて回っても苦にならないほどの範囲だが、滞在日数の少ない方にはお勧めの乗り物だ。

サンタマリア・ノベッラ駅からドゥオモ、共和国広場、ウフィッチ、ベッカリア広場を周回するA。アルノ河に沿って走るB。サンマルコ広場から考古学博物館、サンタクローチェ教会、そしてアルノ河を渡るC。駅からアルノ河をこえピッティ宮殿、ヴェッキオ橋の袂からあるの側に沿って走るD。

パス、チケットは駅前広場のボックスでかんたんに購入できる。

あなたもミニバスを使って、フィレンツェのスペシャリストになってみませんか？



企画・立案のお手伝い　海外視察・交流の旅

■海外視察の旅

◇高齢者福祉関連（施設／在宅／介助器具など）
◇障害者福祉関連（社会工場／障害者教育など）
◇医療関連（各国の医療制度調査、病院視察）
◇教育関連（各種学校視察／教員組合懇談など）
◇保育関連（保育園・幼稚園視察など）
◇ ごみ・リサイクル関連（行政、焼却場、埋立地、有害ごみ処分場など）
◇環境関連（環境保護団体、環境問題など）
◇行政関連（行政システム／町づくりなど）
◇農業関連（農業団体訪問、ファームステイ、アグリツーリズム）
◇国際機関からNGO、NPOまで

■海外交流の旅

●中国の春節（旧正月）に民宿で餃子作り、イタリアの農家でパスタ作り、韓国の家庭でキムチ作り、心かよいあう食文化交流の旅
●中国の南京で、ベトナムのクチで、チェコのテレジンで、ポーランドのアウシュヴィッツで、体験者と交流する平和の旅
●中国で太極拳、イタリア、ハンガリーの温泉でヒーリング、スイスでハイキング、イギリスでウォーキング、スポーツと健康の旅
●子育てから介護まで、教育と福祉、労働と家庭生活、余暇の過ごし方など、“草の根からの民間外交”友好訪問の旅

創立記念　研修旅行　同好会

■秋から本格シーズン

●７～8月は、視察・交流先も夏休み。
●コンサート観賞、季節の料理など、この時季ならではのプラスアルファーの楽しみも。
●準備期間は、半年以上。企画立案はおまかせください。旅づくりのプロがお手伝い。

■企画のヒント

●創立・結成記念の節目に（○○周年記念企画）。
●国際会議や集会に会わせて
●構成員の教育・研修、福利・厚生に。
●三世代、小組み、サークルなど5人、10人、20人集まれば自主企画に。

■お問合せは、0120-14-12-14

イベントコーナー

非同盟運動発足40周年記念
21世紀－非核、平和の日本をめざす運動と非同盟運動との結びつきを願って

非同盟運動と，この運動の発展を考える

国際シンポジウム

民族主権の尊重、平和、飢餓・貧困の解消をめざして

★日時　2001年9月15日（土）13：00〜18：00
16日（日）09：30〜13：00

★会場　早稲田大学国際会議場
東京都新宿区西早稲田1-20-14
事務室・直通　Tel.03-5286-1755

★交通　営団地下鉄　東西線　早稲田駅徒歩15分
都営荒川線　早稲田駅徒歩5分

★参加費　1人：10,000円　大学生：5,000円

パネリスト（予定）
- アジア・アフリカ人民連帯機構（AAPSO）
- プエルトリコ独立新運動
- 南アフリカ共和国
- インドネシア共和国
- 東南アジア諸国連合（ASEAN）
- 日本

★よびかけ人（3/15現在　五十音順）

秋庭稔男（日本AALA連帯委員会理事長）
石岡克美（全解連委員長代行）
一戸葉子（婦民「再建」会長）
井上美代（新日本婦人の会会長）
岩佐　茂（日本科学者会議事務局長、一橋大教授）
宇賀神直（自由法曹団団長）
遠地靖志（全学連中央執行委員長）
緒方靖夫（日本共産党国際局長、参議院議員）
岡倉古志郎（元日本学術会議副会長）
岡部廣治（元津田塾大教授）
北村　実（早大教授）
木村康子（日本母親大会実行委員長）
桐山　昇（中央大教授）
櫛田ふき（婦団連会長）
佐々木健三（農民連会長）
小林洋二（全労連議長）
坂井　希（日本民主青年同盟委員長）
佐々木隆爾（日大文理学部教授）
塩沢美代子（元アジア女子労働者交流センター代表）
高柳　新（全日本民医連会長）
寺本光朗（千葉商大教授）
中濃教篤（アジア仏教徒平和協議会日本センター理事長）
中村平治（東京外語大名誉教授）
長谷川正安（名大名誉教授）
畑田重夫（国際政治学者）
福山秀夫（日本平和委員会代表理事）
藤田俊彦（前長崎総合科学大教授）
古川栄一（日本国際戦略センター理事長）
堀中　浩（明治大教授）
松井康浩（日本原水協筆頭代表理事）
松島榮一（歴史教育者協議会委員長）
宮寺清一（文団連事務局長）
山口博一（文教大教授）

事務局（問い合わせ先）
日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
〒160-0022　東京都新宿区新宿2-11-7　第33宮庭ビル4F
Tel：03-5363-3470　Fax：03-3357-6255
Eメール：jaala@mta.biglobe.ne.jp　ホームページ：http://www.2u.biglobe.ne.jp/~jaala/

★「非同盟国際シンポジウム」参加のよびかけ

2001年、今年は非同盟運動発足40周年記念の年にあたります。

第１回非同盟諸国首脳会議（61年9月、ベオグラード・ユーゴスラビア）以降、首脳会議は回を重ね、こんにち第12回（98年9月、ダーバン・南アフリカ）におよび、首脳会議加盟国数は、第1回の25カ国から120カ国となり、国連加盟国数（189）の3分の2近くを占めるにいたっています。

非同盟運動は、旧植民地体制の崩壊がもたらした20世紀後半の国際政治上の，極めて重要な潮流です。

こんにち非同盟運動は、核兵器廃絶、国連憲章の諸原則にもとづく世界の平和、またＩＭＦ（国際通貨基金）、世界銀行などの国際金融機関，ＷＴＯ（世界貿易機関）の民主化など，国際政治，経済に現実に影響を与えています。

非同盟運動にとって記念すべきこの年に、非核・非同盟の日本を願う日本国民と、非同盟運動との結びつきをはかるために、各界各層の著名な方々の呼びかけにより、「非同盟国際シンポジウム」が開かれます。非同盟運動発足40周年の記念すべきこの年に、こうした「シンポジウム」が、首脳会議未加盟国、世界第2の経済大国、被爆国、日米軍事同盟のもと基地国家とされている日本で開かれることは、非同盟運動史上かつてないことです。まさに歴史的といえる「シンポジウム」です。

「シンポジウム」の画期的な成功のための、ご支持とご協力を、「シンポジウム」への参加を心からよびかけます。

編集後記

十二年ぶりにベルリンを訪ねました。当時はまだ東西を隔てる壁があり、ブランデンブルク門は、東西ドイツの国境という緊張した雰囲気がありました。

今回は、市バス一〇〇番で門をくぐり、東側ウンター・デン・リンデン通りに入りました。

この通りは、往事のままの概観を保ち、フンボルト大学、ロシア（旧ソ連）大使館、国立オペラ座などもそのまま残っていいますが、外国の自動車メーカーのショールームや銀行の支店などが数多く進出し、この一等地を占領？していました。

旧東独の議会があった共和国宮殿は、内装材に有害物質が使われていたため、解体してかつてのベルリンの城を再建するか、内装を換えて再利用するか検討しているそうです。かつて一流を誇ったラジソン（旧パラスト）ホテルも骨組みだけの哀れな姿をさらしていました。

いずれにしても旧東独時代の建物は次々に解体されていくことでしょう。

雪の残るマルクス・エンゲルス広場にひっそりと立つ二人の像を見て、ガイドのMさんが「何も悪いことをしなかったので、市民たちは壊さなかったのでしょう」とぽつんと言いました。

国民の支持を失った政権は必ず倒れる。日本の三党連立政権も例外ではなく、音を立ててくずれることでしょう。（MK）

歴史をきざむ古都に新しい息吹を訪ねる 歴教協ヨーロッパの旅
オランダ・ポーランド・イタリア・オーストリア

8月7日〜20日　14日間　599,000円

★アンネの家とレジスタンス抵抗運動を２カ国で見る
★ナチスの爪痕・アウシュビッツ収容所見学と専門家のレクチャー。マウトハウゼン収容所で生存者との懇談予定。
★反核市民運動ヒロシマ・グループと懇談
★サウンド・オブ・ミュージックの舞台にもなったアルプスの麓ザルツカンマーグートの大自然を満喫

①成田発、オランダへ②午前：アムステルダム市内見学＝**アンネの隠れ家、レジスタンス博物館**　午後：自由行動　夕刻：ポーランドへ③午前：ワルシャワ市内見学＝ゲットー英雄記念碑、ワルシャワ蜂起記念碑　午後：列車で世界遺産の古都クラクフへ　着後：クラクフ市内見学＝市場広場、バベル城　夜：**民族舞踊を楽しむディナー**④終日：**アウシュビッツ強制収容所見学**＝前館長のレクチャー、アウシュビッツボランティア活動家と交流⑤午前：空路イタリアへ　午後：ローマ市内見学＝アルディアティーネの洞窟、コロッセオなど⑥終日：自由行動 OP スパルタクス蜂起のカプアとポンペイ OP カンツォーネのタベ⑦午前：陸路アッシジとボローニア散策、「水の都」ベネチアへ⑧午前：ベネチア市内見学＝サンマルコ広場、ゴンドラ乗船など　午後：列車でオーストリアへ⑨午前：**大自然ザルツカンマーグート見学**　午後：ザルツブルグ市内見学＝モーツァルトの生家など⑩午前：陸路リンツ郊外**マウトハウゼン強制収容所見学**、生存者と懇談（予定）午後：陸路ウイーンへ⑪午前：ウイーン市内見学＝シェーンブルン、ベルベデーレ宮など午後：レジスタンス博物館見学　夕刻：**反核市民運動ヒロシマ・グループと懇談**⑫終日：自由行動　夜： OP 音楽鑑賞⑬午前：帰国の途へ⑭東京・成田着

楽聖ゆかりの地とスイス・アルプスの休日 平和と音楽　アルプスの少女ハイジの舞台へ
チェコ・オーストリア・スイス

8月6日〜17日　12日間　533,000円

★ナチスによって消滅させられた村リディツェ訪問とマウトハウゼン強制収容所見学。
★ウイーンで草の根平和グループと交流
★音楽の都で楽聖たちゆかりの記念館、墓地楽聖区やベートベン遺書の家など足跡をたどる
★大自然スイス・アルプスで「アルプスの少女ハイジ」の舞台やカリジェの絵本「ウルスリのすず」の舞台などゆったり大自然での休日を満喫

①成田発、チェコへ②午前：プラハ市内見学＝プラハ城、カレル橋　午後：**ファシズムを告発するリディツェ村訪問**　夜： OP ブルタバ川ディナー・クルーズ③終日：自由行動 OP 音楽鑑賞④午前：列車でオーストリアへ　夕刻：**草の根平和グループと交流**⑤午前：ウイーン市内見学＝ジェーンブルン、ベルベデーレ宮見学　午後：**音楽散歩**＝中央墓地楽聖区、ベートーベン遺書の家　夜： OP ホイリゲ（ワイン居酒屋）のタベ⑥終日：自由行動＝美術史美術館など⑦午前：リンツ郊外**マウトハウゼン強制収容所見学**　午後：陸路スイスへ⑧午前：**「アルプスの少女ハイジ」の舞台でハイキング**　午後：列車でポントレジナへ⑨午前：**カリジェ絵本の「ウルスリのすず」の舞台**からのハイキング　午後：自由行動＝セガンティーニ美術館など⑩午前：ベルニナ・アルプスを眺める展望台(3303m)　午後：ロゼッタ谷へのハイキング、馬車でポントレジナへ⑪陸路、空路帰国の途へ⑫東京・成田着

名画との出会い、明るい子どもたちと交流 「ゲルニカ」と陽光のアンダルシアとポルトガル
スペイン・ポルトガル

8月6日〜17日　12日間　499,000円

★世界の「ゲルニカ」など美術界の巨匠の名画鑑賞
★陽気な子どもたちと農場学校で交流
★陽光のアンダルシア３都市を見学。世界遺産の古都トレド、コルドバ・メスキータやイスラム文化の結晶アルハンブラ宮殿、そしてポルトガル・エヴォラ見学
★民族芸能、情熱のフラメンコと哀愁のファド

①成田発、スペインへ②マドリッド市内見学＝プラド美術館など　午後：古都トレド見学＝エルグレコ傑作のサン・トーメ教会、大聖堂など③午前：**ラリンピア農場学校訪問で子どもと交流**　午後：**「ゲルニカ」**鑑賞と自由行動　夜： OP フラメンコショーとディナー④午前：列車でアルダルシア地方コルドバ市内見学＝メスキータ、花の小路など　午後：陸路グラナダへ⑤午前：世界遺産イスラム文化の象徴**アルハンブラ宮殿見学**　午後：自由行動⑥午前：陸路セビリアへ　午後：セビリア市内見学＝**世界遺産・大聖堂**、ヒラルダの塔⑦午前：陸路国境を越えてポルトガルへ　昼：歴史的建築国営ホテル・ポウザーダで昼食　午後：エヴォラ市内見学⑧午前：自由行動　午後：陸路首都リスボンへ⑨午前：リスボン市内見学＝**世界遺産・ジェロニモス修道院**、ベレンの塔、発見のモニュメントなど　午後：自由行動　夜： OP ファドを楽しむディナー⑩終日：自由行動 OP 世界遺産シントラとヨーロッパ最西端のロカ岬への小旅行⑪空路帰国の途へ⑫東京・成田着

この旅行は東京都教職員組合の企画ですが、どなたでもご参加になれます。